

## 月の花挽歌 ～5.裸のマハ～

### 5-14

真紀は右手を絵描きの左手に絡ませて、レースガウンの下から胸元に引き寄せると、三文役者然とした品を作り、挑発的な眼差しを注いで尋ねた。

「ヌードを描くのは初めてとおっしゃったけど、何種類の筆を使うの？」

「描き始めてみないと……、まあ、八種類位は使うだろうね」と男は女の皮肉を意に介さず至極真面目な顔で答えた。

「完成するまで、私はどれくらい拘束されるのかしら？」

一時間ごとに十五分の休憩をはさみながら五時間程度を三日間拘束されたと言う話を、学生時代にヌードモデルのアルバイト経験を持つホステスから聞いた記憶を頼りに、真紀は自身のスケジュールに組み込む算段をどうつけたらいいのか不安になり、画家に確認した。

「今描かせてもらったラフデッサンを描き起こしてからじゃないと何んとも言えないが、この素描があれば、そんなに時間は取らせないよ。洋画家じゃないからね」と画家は無頓着な口調で答えると残りのサンドイッチを頬張り、バドワイザーを飲み干した。

画家としての才能と実績を理解しているつもりであっても、横田の言い分が胸に落ちるまでは多少の時間経過を要することを真紀は分かっていた。

「可能な限り協力させていただきます。込み入ったことは分かりませんが、素人にも五分の魂がありますから」と真紀は訴えた。

真紀は面食らった顔で首を傾げる横田を無視して、明日の月曜日からの予定を頭の中であれこれ整理する内に、そうしている自分が酷く滑稽に思えてきて、知らぬ間に、以前見たことがあるBS映画で放送された『日曜はダメよ』の主題歌を口ずさんでいた。

千九百六十年にギリシャで制作された白黒映画『日曜はダメよ』は、ギリシャの港町に住む娼婦と古代ギリシャ研究家のアメリカ人旅行者とが地域の人たちを巻き込んで織りなす物語で、主演女優のメリナ・メルクーリが歌った明るく軽快でコミカルな曲調の主題歌はアカデミー歌曲賞を獲得した。

日曜だけは仕事を休んで、気に入った男たちを呼んでドンチャン騒ぎをする娼婦と覚えやすい主題歌とが、真紀の記憶の底に印象深く刻まれていたのか、おぼろげながらも、主題歌をそらんじて歌うことができた。

唐突に鼻歌まじりに口ずさむ女の真意を測りかねる男は、それでも聞き覚えのある曲名を思い出そうとしていた。